

京信本店で映画「ラオス 竜の奇跡」を上映します！

平成30年12月8日（土）に、当金庫でラオスのダム決壊被害支援として「ラオス 竜の奇跡」の上映会を開催いたします。

これは今年7月23日にラオス南東部で建設中のダムが決壊し、数千人の被害が出たという報道を受けて、関西ラオス友好協会様が募金活動をされるということで、京都市動物園のゾウを通じてつながりのある当金庫において、上映会を開催することになりました。

この上映会でいただく鑑賞料は、ラオスへ義援金として寄付します。また、映画を通じてラオスのことをより多くの方々に知っていただくことも目的としていますので、是非京都信用金庫本店にお越しくください。上映会の詳細は下記の通りです。

記

1. 作品

「ラオス 竜の奇跡」（日本ラオス外交関係樹立60周年記念作品）
日本の若者がラオスにダムを作ろうとしたお話です。

2. 日時

平成30年12月8日（土） 同日2回上映です

第1回上映 13:00～15:15（開場：12:30）

第2回上映 16:00～18:15（開場：15:30）

3. 会場

京都信用金庫本店3階 「京信ホール」

ご来場は本店の正面入口（四条通）より入場してください。

駐車場はございませんので、公共交通機関でお越しくください。

お席は先着順とさせていただきます。

4. 主催

関西ラオス友好協会

5. 鑑賞料

1,000円（鑑賞料はラオス復興支援金としてラオスに寄付されます）

以上

ラオス ダム決壊被害支援上映会



その流れは
いつも優しい

原題
サイ・ナムライ
(川の流れ)

ラオス 竜の奇跡

出演：井上雄太 ティダー・シティサイ

監督：熊沢賢人 脚本：守口悠介 熊沢賢人 音楽：栗コーダーカルテット

製作：Japan-Laos Creative Partners 配給：アークエンタテインメント

後援：駐日ラオス人民民主共和国大使館 協力：JICA、川崎商工会議所

2016年/ラオス・日本/ラオス語、日本語/原題：Say Nam Lai/112分/5.1ch/シネスコ/デジタル/カラー 6

© Japan-Laos Creative Partners

www.saynamlai.movie

日時：2018年12月8日(土)
会場：京都信用金庫 本店 3階京信ホール
 京都市下京区四条通柳馬場東入立売東町7番地
 最寄駅 地下鉄「四条駅」東へ徒歩10分(12番出口グ)

主催：関西ラオス友好協会 お問い合わせ /kansai.lao@gmail.com

第一部上映

開場 12:30 13:00 ~ 15:15 上映時間 112分

第二部上映

開場 15:30 16:00 ~ 18:15 上映時間 112分

※第一部・第二部の上映内容は同じです

鑑賞料 1,000円

会場にて当日販売も致します。

鑑賞料は全てラオス復興支援金として
ラオスに寄付させていただきます。

史上
初
日本
ラオス
合作映画



ラオスには海がないでしょ
みんな川と一緒に暮らしてるから
川のように流れのままに
生きているの

息をのむ ラオスの美しい大自然

1960年(昭和35)、オリンピック開催を間近に控えた日本。終戦から15年が経ち、誰もが上を向いていた時代、人々は開発の熱気に充ち溢れていた。そんな日本を飛び出し、ダム建設調査の為、ラオスに渡った日本人がいた。将来の成功を夢見た青年の名は「川井」。しかし、川井は調査中の事故で消息を絶つ。当時、内戦中だったラオスの首都ビエンチャンでは戦闘が勃発、政府による川井の捜索も打ち切られてしまう。

2015年、急激な都市開発が進むラオス。家族とのすれ違いで故郷を飛び出したラオス人女性「ノイ」は、慣れない都会暮らしに埋もれていた。そんなある日、友人からのナムグム湖観光の誘いをきっかけに、1960年のラオスへと迷い込んでしまう。

ゆるやかな川のほとりで二人は出会い、
辺鄙な農村で、暖かな村人たちとの
共同生活が始まった。

1960年に実在した日本人に
焦点をあて脚本化。



力をぬいて

素直になると
人の温もりが
みえてくる

人はとても
あたたかい

ラオスが、
教えてくれました



竜とラオスの神話

川は多くの恵みをもたらすとともに、時には洪水を起こし人々を懲らしめます。蛇行する川の姿を見て人々は、竜の存在を信じました。一年に一度、竜は人々にその存在を知らしめます。ラオスで今も続く「バンファイ・バヤナーク(竜神の炎)」の伝説です。

ラオスという国

ラオスは東南アジアで唯一海がない内陸国です。日本の本州と同じ面積を持つ国土の8割が山岳地帯で、アジア有数の大河「メコン」に沿って平地が広がっています。人口は約700万人。首都はビエンチャン。

プロデューサー：森草 監督補：大原盛雄 撮影：金子正人 録音：志満順一 美術：Surawat CHUPOL(タイ) 編集：小堀由起子 衣装：富田祐子 助監督：Anysay KEOLA(ラオス) 制作：Athixay BOUANDAHEUANG(ラオス)
装飾：Xaysimone CHUNTHADUANG(ラオス) 照明：Florent DUROC(仏) ヘアメイク：Phonapha OUDOMSOUK(ラオス) 製作：ジャパン-ラオス-クリエイティブ・パートナーズ(日本) 共同制作：Lao New Wave Cinema Production(ラオス)

後援 京都市・ラオス人民民主共和国大使館・在京都ラオス名誉領事館
京都信用金庫・京都市教育委員会・京都市はぐくみネットワーク
京都市 PTA 連絡協議会